

「線維形成性小円形細胞性腫瘍(Desmoplastic small round cell tumor: DSRCT)の臨床経過に関する後方視的研究」

【研究対象】

1999年1月から2014年12月までに国立がん研究センター中央病院もしくは東病院で病理学的に線維形成性小円形細胞性腫瘍(DSRCT)と診断された患者さんを対象とします。

【研究の概要】

線維形成性小円形細胞性腫瘍(DSRCT)は主に青年期から若年成人の男性に発症する非常にまれな腫瘍です。予後は極めて不良であり、大部分の患者さんが再発し死亡すると言われています。広範囲な腹腔内病変として発生し多くは初発時から遠隔転移を伴います。化学療法、手術、放射線治療などの集学的治療によっても5年生存率15%以下と言われ、いまだ確立した治療戦略が存在しません。国立がん研究センターにおける本腫瘍の臨床経過を検討し、今後の診断や治療に際して有用な情報となるよう本研究を計画しました。

【研究の意義】

DSRCTは軟部肉腫の中でも頻度が低く稀な疾患です。このため大規模な検討はほとんどされておらず、臨床像や最適な治療方法についてはまだ十分に検討されていません。国立がん研究センターはDSRCTを含めた希少な肉腫に罹患された患者さんの診療実績について国内で有数の医療機関です。これらの貴重な経験から、DSRCTの臨床像を詳細に検討することや、最適な治療方法を模索することは、本腫瘍の治療成績を向上させていく上で、非常に重大な意義を持つと考えます。

【目的】

DSRCTの患者さんの臨床像、治療経過を検討し、適切な治療戦略を提案することを目的としています。

【方法】

1999年1月から2014年12月までに国立がん研究センターでDSRCTと診断された患者さんの治療経過を、診療録や画像検査、血液検査、病理スライド等などの資料をもとに検討致します。資料から収集する情報は、年齢、性別、腫瘍の部位と大きさ、病期、化学療法（抗がん剤の種類とコース数、有害事象、治療反応性）、手術（術式）、放射線治療（用いた放射線の種類、線量）、その他の治療（分子標的薬など）、再発の有無と再発様式、再発の時期、全体の生命予後などです。

【個人情報保護に関する配慮】

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが、上記解析を行う際には、患者さんの氏名などの個人情報は省いて検討を行い、これらの個人情報が決して外部に漏れることのないよう注意を払います。また、このホームページにおいて研究について公開し、問い合わせ等に応じて患者さんからご希望があればその方の診療録は研究に使用致しません。研究結果がすでに学会や論文等で報告されている場合にはご希望に添えないこともあります。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

〒277-8577

国立がん研究センター東病院 小児腫瘍科 安井直子

TEL 0471-33-1111, FAX: 0471-31-9960